

教会創立103周年

週報

2026年4月26日 5391週

【今年度のテーマ・聖句】

「共に喜ぶ」

—ハレルヤ わたしの魂よ主を讚美せよ—

わたしたちの一つの体は多くの部分から成り立っています。すべての部分が同じ働きをしていないように、わたしたちも数は多いがキリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分なのです。（ローマの信徒への手紙12章4～5節）

巻頭言

牧師 加藤英治

私に影響を与えてくれた本②

ロドニー・スターク『キリスト教とローマ帝国』新教出版社、2014年

ロドニー・スタークは、アメリカの社会学者です。この本は、「古代ローマ帝国において、なぜキリスト教が急速に広まり、増加したか」を、社会学的に説明しようとしたものです。「社会学的に」ですから、そこには神学的・信仰的説明はありません。「神の御心」とか「奇跡」とは言わないのです。あくまでも、調査との結果に基づいて説明をします。

古代ローマにおいて大変大きな問題の一つは、「疫病」でした。それは、人々を身体的に苦しめたばかりでなく、宗教的にもまた試練に投げ入れられました。「そういう凄まじい状況で人間はなぜと問わずにいられない。なぜこんなことが起こるのだ。なぜ彼らであつて、自分ではないのか。自分たちも死ぬのか。そもそも世界はなぜ存在するのか。つぎはどうなるのか。自分たちに何ができるのか。」そんな中で、キリスト教は、一つの有力な答えを提供し得たというのです。「キリスト教徒が異教徒よりも優位に立つことのできた点は、彼らの信仰の教義では、思いもかけぬ急激な死のさなかにあつてさえ、生が意味あるものとされたことである。——不思議にも命を取り留めた僅かばかりの生存者は、亡くなった近親者や友人を思うとき、みんな天国に生を享けるに違いないと、自分の悲しみを癒してくれるほのぼのとした慰めを得た。要するにキリスト教は、困苦と病氣と横死が支配する混乱の時代に完全に適合した、思想と感情の一体系だったのである。」

そのような死生観・世界観に基づいて、キリスト教徒たちは、危機の社会から求められていた奉仕の働きに乗り出して行きました。「わたしたちの兄弟の大半は、あふれんばかりの愛と兄弟愛から——危険を顧みずに病人を訪れ、優しく介護し、キリストにあつて仕え、そして、彼らと共に喜びのうちにこの世を去りました。」「それまでにはない何かの世界に現れたのだ。——神が人類を愛するゆえに、人は互いに愛し合わなければ神を喜ばすことできないというのも、多神教にはない考えだった。——こうした思想が革命的だった。」

日本バプテスト シオン山教会

牧師：加藤英治

〒803-0846 北九州市小倉北区下到津2-1

TEL:093-561-0772 Fax:093-561-0760

E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

HP-address: <https://bapzion.com>



◆ 主日礼拝 午前10時30分

司会 酒井光子姉
奏楽 田中秀一兄

前 奏
招 詞 創世記1：26～27
頌 栄 670 (主のみ名をほめまつれ)
主の祈り (新生讃美歌の扉を参照)
交 読 3 (礼拝・神の栄光)
讃 美 86 (輝く日を仰ぐとき)
聖 書 テトス 3：1～8
(新共同訳 393p 口語訳 339p)
祈 禱
子どもメッセージ 加藤英治牧師
讃 美 219 (救い主 主イエスは)
聖歌隊
宣 教 「人間を愛する神が」
加藤英治牧師
祈 禱
讃 美 544 (ああ嬉しわが身も)
献 金 祈り：金井佳世子姉
(女性会B班)
頌 栄 673 (救い主 み子と)
祝 禱 加藤英治牧師
後 奏
報 告

◎今月の聖句

「しかし、実際、キリストは死者の中
から復活し、眠りについた人たち
の初穂となりました。」
(コリントの信徒への手紙Ⅰ
15章20節)

本日の集会

教会学校

幼小科

10：30～11：40

中高科、青年・成人科

9：30～10：15

主日礼拝の当番

受付：二木榮子 持田文重

お花：藤田恒

昼食 11：50～12：30

定期総会 12：30～14：30

定例役員会 14：30～15：30

◎今週の集会(4月26日～5月2日)

<聖書> テモテⅠ 1：12～20

29日(水) 祈禱会Ⅰ 休会

祈禱会Ⅱ 休会

今週の聖書日課と祈り

26日(日)	テトス 3：1～11	磯部みゆき
27日(月)	ローマ 5：6～8	稲生彩子
28日(火)	ローマ 6：3～4	植木かおり
29日(水)	コリントⅡ 5：17	植木美紗子
30日(木)	テモテⅠ 1：3～5	内田博祥
1日(金)	ヨハネ 15：16～17	内田綏子
2日(土)	ローマ 12：1～2	大里紀代子